

はじめに

坪井幼稚園における自己評価シートをもとに、平成27年度の実情を分析した結果を以下の通り報告する。

1. 園の教育目標について

人権尊重の教育を基調とし、豊かな心をもった心身ともに健康でたくましい幼児の育成をめざす。

- 意欲・関心のある子ども
 - 身近な環境（自然・社会）に、積極的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする幼児。
 - 五感と全身を十分に使った、学びと遊びを通しての喜び、満足、充実を感じる幼児。
 - 困難に負けず、最後までやりぬく幼児。
 - 感じたこと、考えたことを表現する感性・意欲をもつ幼児。
- よく考えて行動する子ども（態度）
 - 自ら健康で安全な生活をつくりだし（自立心）、友だちと親しみ支え合って生活する（連帯感）幼児。
 - 言葉で経験を表現し、言葉で理解しようとする幼児。
 - 落ち着いて人の話を聞いたり、話したりしようとする幼児。
 - 自分で考えてものごとじょうにじっくり取り組む幼児。
- 心の豊かな子ども
 - 豊かな感性・創造性を持ち、素直に表現する幼児。
 - 友だちとの生活や遊びのなかで、自分を表現し、相手も受け入れ認め合おうとする幼児。
 - 自分らしさを発揮し、自信をもって生き生きと生活する幼児。

2. 平成27年度 自己評価取り組み目標とねらい

自己評価の取り組みによって、客観的に教師としての姿勢や園の教育目標に合った教育内容になっているのか等の見直しや自己反省を行い、1人ひとりが自らの課題を設定し教師としての質を高めるための手立てとしたい。

3. 評価項目に対する取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1、保育の計画性	本園の教育目標に従い、子どもを真ん中に据えた教育課程を編成するとともに教育課程の説明会に全教職員を交代で出席させ、新教育要領の理解に努め教育課程の編成にあたっている。今年度は、子どもの実態に即した園の教育課程を編成するために、より丁寧に検討を行ない幼稚園教育要領を軸に全職員で取り組んだ。また、教職員がより子どもの姿を把握しやすく

	<p>なることで保育の質をあげたいと考え、記録の取り方を見直した。</p>
<p>2、保育のあり方・子どもへの対応</p>	<p>朝の登園時の受け入れは園長が行ない、担任への報告・連絡の徹底を行なった。クラス担任は保育室にて子どもを迎え、子どもたちと共に朝の活動に関わることで、一人ひとりの姿を把握するよう努めていた。子どもの安全については全職員が常に危機意識を持ち連絡・報告を心掛けた指導上配慮を必要とする子どもについては、ケース検討会を実施し、全職員で子どもの良さを引き出すことで苦手意識を軽減させる手立てを考えている。更なる努力を続けていきたい。毎年、異年齢の交流を通しての心の育ちを育むため、保育形態を工夫している。</p>
<p>3、保育者としての能力や良識・適正</p>	<p>全職員が専門家としての知識を学ぶため、平日頃から研修に取り組んでいる。県や市の専門講座・研修大会、全国大会など幅広い分野の学びが身に付くように努力している。また、新聞やTV番組をチェックし、社会の状況を把握することで保護者への支援にも繋げている。職員は、挨拶や接し方・言葉使いなどが子どものモデルとなることを自覚している。また、実践記録や情報交換をおこない、お互いの質の向上に努めている。</p>
<p>4、保護者への対応</p>	<p>指導上配慮を必要とする子どもについては、担任とコーディネーターが保護者に対応し、支援計画についても保護者の意向を聞きながら進めた。また、支援会議を行ない療育機関との連携を図った。不安を抱える保護者への対応は、保護者の立場に立ったうえで園の考えを伝え、理解して頂けるよう丁寧に説明することを心掛けた。長期欠席や入院の園児への連絡や見舞いを行ない、園児・保護者の安心へと繋げた。毎学期クラス懇談会や個人面談をおこない、子どもの園での様子、家庭の様子などの情報交換を行う。園での様子はクラス日より・園日より・“つぼいっこ”・預かり日より等で知らせ、保護者が参加できない行事については、DVDで撮影し、視聴できるようにした。教師は、明るい笑顔と敬語を心掛け、保護者の気持ちに寄り添うことで信頼を得られるよう努力している。学期に1回専門家による子育て相談（希望者）を行なった。</p>
<p>5、地域の自然や社会との関わり</p>	<p>地域のふれあい農園での種植えや収穫・畑作りや筍掘り・地域の行事への参加など、一年をとおして地域の方々とのふれあいできた。地域の老人会が行なう新聞紙の回収作業に園が協力したり、運動会へのご招待や餅つき・竹馬作りでの交流など、年間を通して良い関係作りが出来ている。園外保育では、地域の自然を生かし季節に応じた遊びを楽しみながら交通安全への意識も高めていった。小学校との連携では、地域のまちづくり委員として共に地域の行事や会議等に参加し、地域の中で各団体が協力し合って子どもを育てる環境作りへの一助を担っている。就園前の親子への支援については、園庭を解放して親子登園を行ない子育て支援に役立ててもらっている。</p>

<p>6、研修と研究</p>	<p>研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会議などにおいて報告し合い、共有化を図っている。また、年齢別のケース検討会を学期ごとに実施し、友だちとうまく関われない園児への指導や配慮点について意見を出し合った。一方的な見方ではなく多方面から園児を捉えることで、園児の肯定感が育つような取り組みにしたいとの教職員の意思統一にも役立った。毎月の職員会議に子ども理解シートを提出しての話合いが徹底できず不十分だった。課題としては、研修の積み重ねと支援体制を整えることで職員の質の向上と共に園の教育力の向上へと繋げていきたい。</p>
<p>7、教育内容</p>	<p>幼稚園の教育目標に従い、教育課程を編成・実施している。子どもの発達や実態に応じた内容になるよう計画し、ねらいのたて方、指導方法・配慮点などについて常に反省を行なっている。園の泥んこ教育は、本来の子どもの姿を取り戻し、のびのびと自己表現が出来る子どもを目指している。赤土や砂場の整備・道具の配置などの環境整備はもちろんのこと、時間の保障や教育的意義の理解を促すなど、保護者への配慮も行っている。また、本園は手作り弁当・手作りリュック等、親子の愛着を大切に考えている。手作りに込められた思いは子どもの心の糧になる。安心安全な食を心掛け、地産地消や旬の食材・子どもたちが自ら育てた野菜を使ってのおやつや会食も、如いては郷土愛にも繋がり、食育を通して心の育ちにも大きく関わっている。園児の安全を第一に考え、毎日、天気・温度・環境汚染濃度・職員の数と配置等を考慮。その他には、いろいろな人と関わられるよう、併設の熊本中央高校の先生や生徒さんたちとの交流を図ったり、異年齢体験ができるよう縦割りや遊ぶ日も設定した。お泊り会で得た自信や経験は、子どもの育ちに大きく関与している。教職員は幼児教育への熱意をもって日々子ども達と向き合っている。また、人的環境であることを自覚し、子どもたちの心の育ちに寄与できるよう、研鑽を積んでいる。</p>
<p>8、地域の幼児教育センターとしての役割</p>	<p>園の教育方針や取組みを情報発信するため、毎月のホームページ記載の重要性を認識し、更新に努めた。学期毎に保護者対象の相談会を実施し、専門家による助言を貰えたことが、保護者の安心に繋がっている。相談会を行うことで園と専門機関とのつながりも出来ている。未就園児保育体験に来園の保護者の悩みや相談に応えるなど、地域の幼児教育センターとしての役割も果たせた。</p>
<p>9、安全管理</p>	<p>不審者情報を携帯電話に設定。不審者の侵入防止の為、門扉に鍵をかけている。危機管理マニュアルを作成し職員に徹底。出入りの多い時間帯は職員が門に立ち園児の安全を徹底する。園児には、交通安全教育・水難事故教育・避難訓練等を実施。防犯訓練は全園児を対象に2月に行ない防犯意識を高めた。年長児とその保護者対象のCAP講習会では、一人での行動が</p>

	<p>増える就学前に防犯に対する対応を具体的に知らせることが出来た。防災対策としては、緊急時の対応が適切に出来るように繰り返し避難訓練を行なうことで、職員の危機意識を高めた。また、緊急時の引き渡しカードなど、安全確保の体制を整えた</p>
10、財務管理	<p>公認会計士より適正に処理されている。</p>

4. 総合的な評価結果

自己評価を実施することで、教職員が自分の保育を見直す機会となっている。常に自分の指導法や教育内容を見直し反省を行うことが資質の向上に繋がっている。職員間のチームワークを図り、教育力を高めていった。環境面では安全への配慮として、遊具の点検・動物の衛生管理・害虫駆除等を定期的に行なった。また、園舎は古いが掃除を丁寧に言い、季節の花や遊びが広がる草花を植えることで温かみのある環境整備を心掛けた。子育て支援として預かり保育も行っている。テレビやビデオを見せるのではなく、少ない人数、異年齢のなかで、十分に遊びの時間を保障しながらゆっくりと過ごせるよう配慮・実施している。保護者から本園の教育への理解をいただき、協力体制が整っている。おやちの会も協力的である。地域・保護者の期待に応えるためにも、保育の質の向上と同時に施設面での充実が求められる。年度終わりに併設の熊本中央高等学校の工事が園の敷地内にかかり、安全面での配慮が今まで以上に求められている。教育の面での配慮も十分に行ないながら、地域の教育センターとしての役割を果たしていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	<p>ホームページの充実（教育内容の広報など）。 学校関係者評価委員会の組織作り。</p>
自己点検、自己評価	<p>研修の充実・自己評価の意義徹底・職員の心身健康保持と増進</p>

6. 学校関係者評価委員会の意見

本園は学校関係者評価委員会を設けていないため意見は聞けなかった。